



か  
すが  
かんがえる子ども  
すなおな子ども  
がんばる子ども

佐世保市立春日小学校

佐世保市瀬戸越3丁目19番1号  
校長 稲葉 裕美  
児童数 522名 (21学級)

1テーマ 「確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生き抜く児童の育成」  
基礎的学力の確かな定着、個別支援体制の強化  
～特別支援教育の視点を生かして～

## 2目的

### (1) 習得と活用を図った学力の向上

朝の時間の活用や習熟度別学習を通して、基礎・基本の定着と個に応じた指導の充実を図ることで、「基礎学力の定着と学ぶ力の育成」を目標とし確かな学力の向上を目指す。

### (2) 豊かな心の育成

児童一人一人が自らかかわり活動できる体験活動の場を設定することにより、本校教育目標「確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生きぬく児童の育成」の達成を図る。

### (3) 特別支援教育の視点を生かした学校・学級経営

学習や生活に困り感のある児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び支援を行い、学校生活を充実させることで、生きる力を身に付けさせる。

## 3 実践内容

### (1) 習得と活用を図った基礎学力の向上への取組

#### ①「朝の読書タイム」(8:25～8:35 月曜日)

年間を通して読書活動を継続的に推進し、今年度は目標貸出し冊数を昨年度より4,000冊多い40,000冊に設定し、2月中旬には目標を達成した。読解力の向上と心の情操育成に努めた。

《全学年:通年:各教室》



#### ②「国語・算数スキルタイム」(8:25～8:35 火曜日・木曜日)

作成したスキル学習教材や既存のファックスプリント集を活用して、国語科の言語表現能力と算数科単元ごとの基礎的スキル習得を中心とした学習を系統的・継続的に行うことで基礎力育成の素地づくりを図った。

《全学年:通年:各教室》

#### ③ステップルーム・スマイルルーム

通常学級に在籍している児童の中で個別指導の必要性がある場合には、ステップルームやスマイル

ルームにおいて個別学習を行い基礎学力の定着を図り、わかるできる楽しさを味わわせ、意欲向上につなげた。

《通年:ステップルーム・スマイルルーム》



#### ④プレイルーム

教室にいづらさを感じている児童を対象に、個別指導を行い、登校習慣の確立や学力の定着、居場所づくりを図った。

《通年:プレイルーム》



#### ⑤習熟度別学習

算数科少人数授業等において、習熟度別指導や補充的学習を行うことで、個に応じた学習指導を推進した。

《4～6年:通年:特別活動教室》

#### ⑥学力調査

国語科・算数科の学力テストを5月に実施し、結果の検証を行い、課題となる問題を学習の中で意識して取り組ませた。また、スキルの時間を活用し、学力テストの解説と重点課題である記述問題に取り組み概ね達成した。

《2・3・4年:5月:各教室》

### (2)豊かな心の育成のための各学年の主な実践

① 花や野菜の栽培活動を通して、心豊かな環境づくりや命の教育の学習を推進することができた。

《1・2年生・特別支援学級:通年》



② 1年生との学校探検では案内役を務めリーダーシップを発揮した。また、保護者の協力も得て校区内を探検し、自分達の町のことをよく知る活動に取り組んだ。3学期には、自分が大きくなってきた様子について調べ、成長の喜びを感じることができた。

《2年生:5月11月1月》



③ 校内校外の安心安全の施設を調べたことで、地域の安全に意識をもつことができた。九十九島の自然や歴史についてお話を聞いたり佐世保の自慢を調べたりして新聞にまとめたことで佐世保の良さを知ることができ、郷土を大切にしようという心情が育った。

《3年生6月9月》



④ 6.29平和集会をきっかけに、平和学習に関心をもち、長崎原爆に関する動画を視聴することで、平和学習へさらに意欲を高め、平和を愛する心、命を大切にする心を育むことができた。また、様々な職業について調べ、自分の将来の夢について考えスライドにまとめることにより、大人になった自分について考えるきっかけとなった。

《4年生:7月10月2月》

- ⑤ 社会福祉協議会の方の講演の中でユニバーサルデザインについて考  
えたり性教育講演会において思春期の心と体の変化を学んだりすること  
で、命の大切さを学び、自分も周りの人もかけがえのない存在であると自  
覚することができた。

《5年生:9月10月》



- ⑥ メディア講演会を通して、スマートフォンや携帯の正しい使い方やマナ  
ーを学ぶことができた。

《6年生:12月》



- ⑦ タイムカプセルを作り、埋設式を行うことで、卒業への意識や自分の将来  
の目標をもたせることができた。

《6年生:2月》



- ⑧ イネづくりや自分たちで育てた野菜をお世話になった先生方に披露したり家庭で持ち帰って食べたりし  
たことで、助け合って活動することの大切さ、周りへの感謝の心を育てることができた。

《特別支援学級:6月12月》

- ⑨ 縦割り班で花苗を植えて、分担して世話をしていた。

《全学年:11月》



### (3) 特別支援教育の視点を生かした学校・学級経営

- ① 西九州大学西村教授を講師として招聘し、すべての児童に配慮する手立てや理解の視点を知り、教  
職員の資質向上に努めることができた。また、スクールソーシャルワーカーの石橋先生を講師として招  
聘し、地域・家庭との連携についても理解を深めた。

《全職員:8月10月》

- ② 要支援児童に配慮した教具を整備することで、すべての児童に有用な教室空間の整備を行うことが  
できた。

《通年》

- ③ 苦手意識のある教科に対して、学習ボランティア(春の日教室)に来校していただき、理解や習得に  
努めることができた。

《通年》

- ④ コグトレの教材を活用することで児童の特性を知ることができ、活用を進めた。来年度はさらに、系統  
的に取り組みを進めていきたいと考えている。

《通年》